

栃木県のキャットクラブの季刊誌に紹介されたからです。

話題の人

石坂 節子さん



8月4日に東京八重洲富士屋ホテルで行われたアワードパーティーのお土産の中に、一冊の本がありました。

「この猫とともに生きる」

時折、ショーでお見かけする方だと、すぐに思い当たりました。表紙を飾っているアビシニアンにも見覚えがあります。ページを開くと、まず最初のページには、力強く筆で描かれた大きな猫のお顔、その中に「この猫と共に 今 今がいちばん倅せ」と、みずみずしく直筆で書かれたお言葉が。

前年、古稀を迎えられた石坂さんがベティちゃんという小さなアビシニアンと出逢い、そのベティちゃんと送った1年間の生活を愛情豊かにスケッチやお写真と共につづられています。

「私には、もう生き物を飼うには時間が足りない。でも、動物と一緒に暮らしたい。」そのような迷いが、かかりつけの内科医の先生の励ましによって、精一杯最後のチャンスを大切にトライしようと決意に変わったこと、そして「この猫と共に今、桃源郷にあります。」と、まえがきに書かれています。このご本を拝見する私たちをも桃源郷に誘い込むような愛情に満ちた素晴らしい作品となっています。石坂さんのご了解を得て、作品の一部をご紹介します。

『初めてのキャットショー』

ミレニアム十一月五日

大田区産業プラザ会館で

アミークリスタル・ベティの初陣

生後四ヶ月と二日目

幼い体にも臆しない眼の輝き

会場は人・人・人で一杯

百頭を超える自信に満ちた猫たち

いよいよ審査開始

ショートヘアー・キツン エントリーナンバー51

ファイナル ファイナル「おめでとう」「かわいいね」

「おめでとう」「いい子ですね」

輪を作っての祝福

黄色とベージュのロゼッタ

多くの方の祝福のことば

何にもかえがたい喜びだった

神戸ご出身の石坂さんは、現在千葉にお住まいで、近くの公園に住みついた猫たちの避妊・去勢など、望まれない不幸な仔猫たちが生まれることがないよう、保護に努めていらっしゃるそうです。書・篆刻にも造詣が深く、ベティちゃんを抱いたお写真の背後にある二双屏風、唐代の詩聖といわれた杜甫の五言律詩「春望」は女性の手で書かれたとは思えないほどの力強さ。仮名書きの優しさよりは凛とした漢字を好まれるという石坂さんの作品はまさにご本人そのもの。

慢性的なご病気をお持ちとご本には書かれていますが、パーティーの際、壇上でご挨拶なさったお姿は、お声も力強く、とてもお元気そうでした。

愛猫ベティちゃんとともに、いつまでもお元気でいて頂きたいと願います。